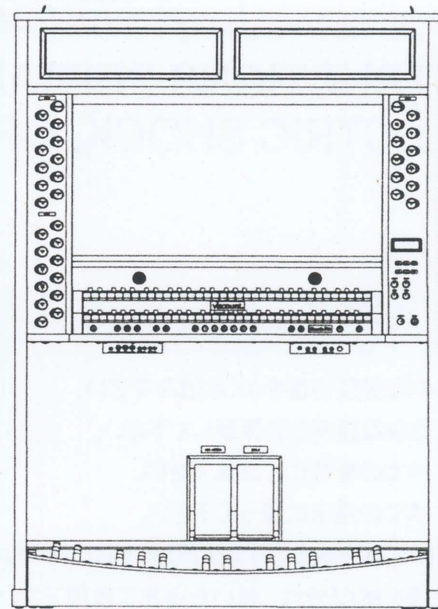
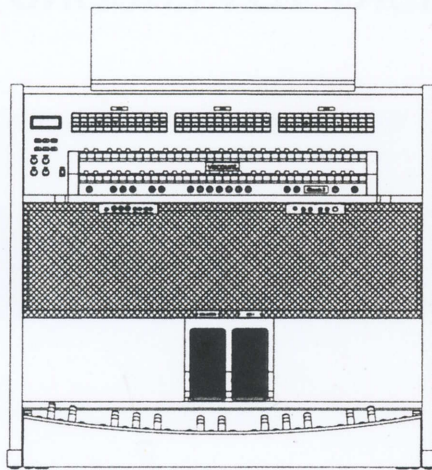


viscount

Chorale 2 Chorale P31



Manuale d'Uso - IT
User Manual - EN
Mode d'Emploi - FR

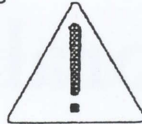
Ver. EU - 1.0

IMPORTANT SAFETY INSTRUCTIONS

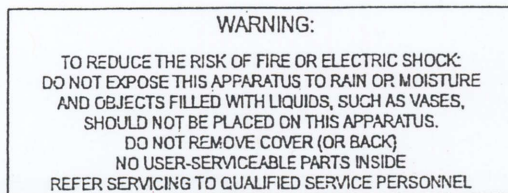
WARNING: READ THIS FIRST!



This symbol is intended to alert the user to the presence of uninsulated "dangerous voltage" within the product's enclosure that may be of sufficient magnitude to constitute a risk of electric shock to persons.



This symbol is intended to alert the user to the presence of important operating and maintenance (servicing) instructions in the literature accompanying the appliance.



"INSTRUCTIONS PERTAINING TO A RISK OF FIRE, ELECTRIC SHOCK, OR INJURY TO PERSONS"

警 告

- 1) この取扱説明書をよくお読み下さい。
- 2) この取扱説明書を保管して下さい。
- 3) すべての警告にご注意下さい。
- 4) すべての指示に従って下さい。
- 5) この楽器を水まわりで使用しないで下さい。
- 6) 楽器を拭くときは、乾いた布をご使用下さい。
- 7) 楽器の開口部を塞がないで下さい。メーカーの指定する場所に設置して下さい。
- 8) 熱源の近くに設置しないで下さい。
- 9) 安全のため、極性のあるプラグ、またはアース付のプラグを使用して下さい。
- 10) 電源コードを踏んだり、はさんだりしないで下さい。
- 11) メーカーの付属品をご使用下さい。
- 12) メーカー専用のカート、スタンド、三脚、ブラケットをご使用下さい。
カートを使用する場合は、転倒防止にご注意下さい。
- 13) 雷の場合や、長く使用しない場合はプラグを抜いて下さい。
- 14) 修理は資格のあるサービスマンにご相談下さい。電源コードやプラグが壊れた場合、液体がこぼれたり、ものが落ちた場合、雨や湿気にさらされた場合、通常に操作できない場合、落とした場合。



目 次

1. 重要な注意点	1
1.1 楽器のケア	1
2. コントロールと接続	2
2.1 フロントパネル	2
2.2 手鍵盤部のコントロール	4
2.3 ペダルのコントロール	6
2.4 鍵盤棚下の接続端子	7
3. メイン・コントロール・ユニット	9
3.1 電源の入れ方とメイン画面	9
3.2 オルガンのセットアップ機能の説明	10
4. オルガンスタイル	12
5. ボイスの交換とボリュームの調整	13
5.1 ボイスボリュームの調整	13
5.2 ボイスの交換	14
5.3 ストップラベルのチェック	15
6. テンペラント	17
7. ジェネラル・セッティング	18
7.1 トレミュラントの設定	19
7.2 リバーブタイプの選択	19
7.3 イコライザーの設定	21
7.4 オーディオ・アウトプットのシグナル・ルーティング	22
7.5 オーディオ・アウトプットボリュームの調整	22
7.6 手鍵盤の基本設定	23
7.7 ピストンの設定	24
7.8 コンビネーション保存の設定	24
8. MIDI	25
8.1 チャンネルを選ぶ	27
8.2 プログラム・チェンジの送信	27
8.3 フィルターの設定	28
9. ユーティリティー機能	29
9.1 ファクトリー・セッティング	29
10. アペンディクス	31
10.1 デモソング	31
10.2 ボイスのローカルオフ	31
10.3 オペレーション システムのアップグレード	32

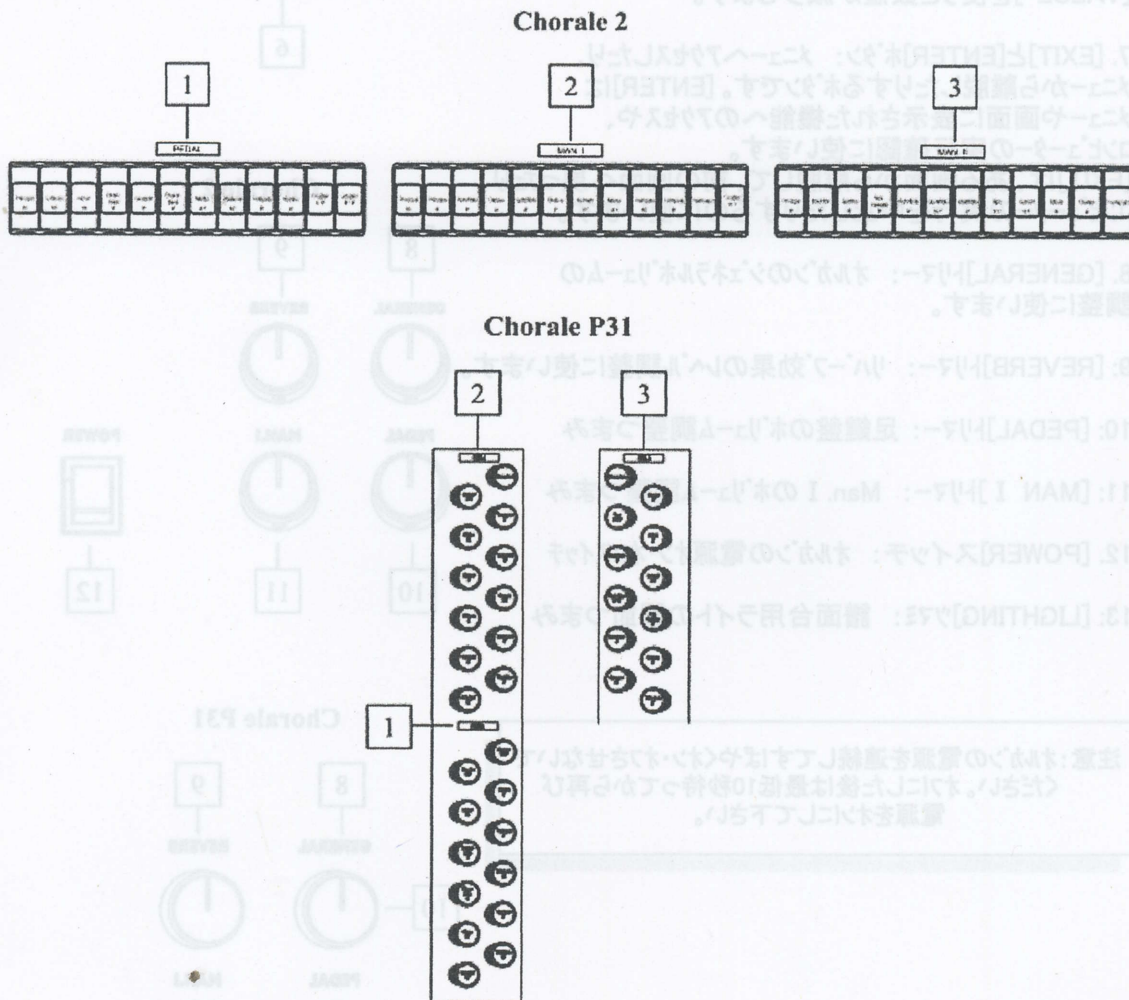
1.1 楽器のケア

- ・オルガン本体やコントロール部(ノブ、ストップ、ボタン等)に無理な力を加えないで下さい。
- ・ラジオ、テレビ、コンピューター、ビデオ等強いノイズを出す機器の近くに、オルガンを設置しないで下さい。
- ・熱源の近く、湿気の多い場所、ほこりっぽい場所、また磁気の強い所にオルガンを設置しないで下さい。
- ・楽器を直射日光にさらさないで下さい。
- ・楽器内部に異物を入れたり、液体をこぼしたりしないで下さい。
- ・掃除をする場合は、柔らかいブラシか、エアを使用して下さい。洗剤、溶剤、アルコールは決して使わないで下さい。
- ・スピーカーへの接続にはシールドケーブルを使用して下さい。ケーブルをはずすときは、必ずコネクター部分を持って下さい。またケーブルを巻くときは、結んだり、ねじったりしないで下さい。
- ・スピーカーへの接続を確認してから、スイッチをONにしてください。雑音や危険なピーク信号を避けることができます。
- ・長期間オルガンを使用しない場合は、電源ソケットからプラグを抜いて下さい。

2.コントロールと接続

2.1 フロントパネル

手鍵盤の上にあるフロントパネルには鍵盤部毎にまとめたストップがあります。これらのストップでオルガンのレジスターをオンオフします。



1. [PEDAL]ストップ: ここには足鍵盤のボイスとカプラーがあります。
 - I/P: Man.Iのボイスを足鍵盤で演奏できます。
 - II/P: Man.Iのボイスを足鍵盤で演奏できます。
2. [MAN. I]ストップ: ここにはMAN.Iのボイスとカプラーがあります。
 - II/I: Man. IIのボイスをMan. Iで演奏します。
3. [MAN. II]ストップ: ここにはMAN. IIのボイスがあります。

フロントパネルの左側に、ボリューム、リバブ、ディスプレイの調整つまみがあります。

4. ディスプレイ: 20文字4行のディスプレイで、オルガンの各機能を表示します。

5. [FIELD▲]と[FIELD▼]ボタン: ディスプレイの画面上で、カーソルを移動するボタンです。

6. [VALUE+]と[VALUE-]ボタン: パラメーター調整用のボタンです。[VALUE+]を使うと数値が増加し[VALUE-]を使うと数値が減少します。

7. [EXIT]と[ENTER]ボタン: メニューへアクセスしたり、メニューから離脱したりするボタンです。[ENTER]はメニューや画面に表示された機能へのアクセスや、コンピューターの実行確認に使います。[EXIT]は、ある画面から離脱して、前の画面へ戻ったり、コンピューターの実行を中止したりするのに使います。

8. [GENERAL]トリマー: オルガンのジェネラルボリュームの調整に使います。

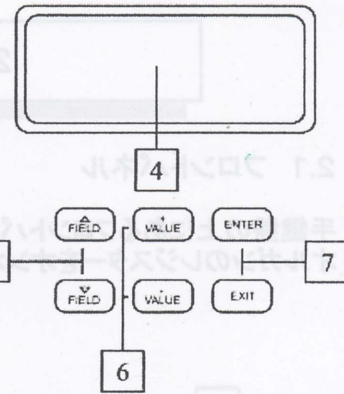
9. [REVERB]トリマー: リバート効果のレベル調整に使います。

10. [PEDAL]トリマー: 足鍵盤のボリューム調整つまみ

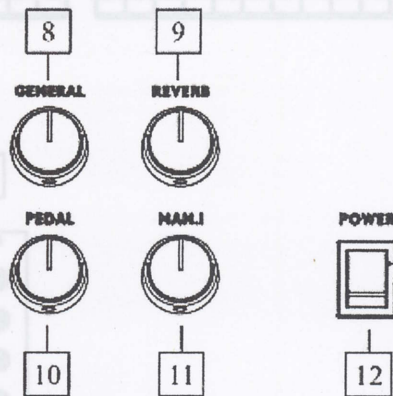
11. [MAN I]トリマー: Man. I のボリューム調整つまみ

12. [POWER]スイッチ: オルガンの電源オン・オフスイッチ

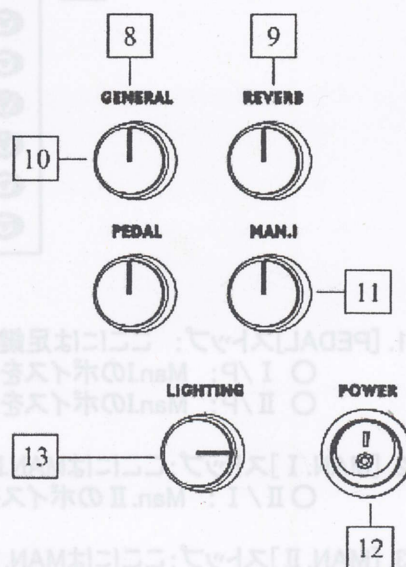
13. [LIGHTING]つまみ: 譜面台用ライトの調節つまみ



Chorale 2



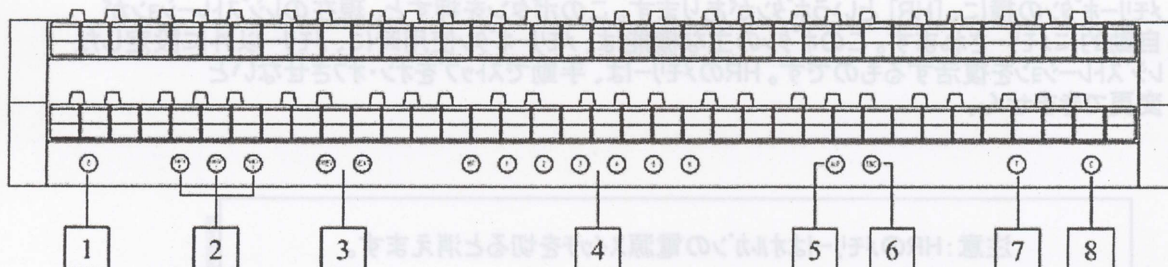
Chorale P31



注意: オルガンの電源を連続してすばやくオン・オフさせないでください。オフにした後は最低10秒待ってから再び電源をオンにしてください。

2.2 手鍵盤部のコントロール

コンビネーション、トゥッティ、カフラーその他のコントロール・ボタンが手鍵盤の下にあります。



1. [S]ピストン: コンビネーション(レジストレーション)をセットする時に使うボタンです。[S]ボタンを押したまま、コンビネーションを押すと、メモリーできます。

2. [MIDI I],[MIDI II],[MIDI P] ボタン: ここには、鍵盤で演奏した音を[MIDI OUT]ポート (Man. I の鍵盤棚下にあります。)MIDIノートを送信する機能をオンにするボタンです。各ピストンのLEDは関連するMIDIチャンネルの送信状態を示しています。

○ピストン点灯: ノートコードを送信します。
○ピストン消灯: ノートコードを送信しません。

[MIDI I]はMan. I に、[MIDI II]はMan. II に、[MIDI P]は足鍵盤に対応しています。

注意: これらのピストンはMIDIノートコード(Note ON, Note Off)だけの送信をオン、オフします。オルガンが処理する他のMIDI情報はこの機能の状態に関係なく、常に送信されます。これらのピストンはMIDIノートの送信のみをコントロールし、受信は常に可能となります。

3. [NEXT]と[PREV.]ピストン: ジェネラル・メモリーの送りボタンです。[NEXT]を押すと、次のメモリーへ進み、(1のときは2へ進む)、[PREV.]を押すと前へ戻ります。(3のときは2へ戻る)

4. ジェネラル・コンビネーション: ここにはオルガンのジェネラル・コンビネーションがあります。コンビネーションを呼び出すと、関連するストップが点灯して、オンになったことを示します。
[NEXT] ボタンを押すと、次のコンビネーション(メモリー)が選ばれ、[PREV] ボタンを押すと、一つ前のコンビネーション(メモリー)へ戻ります。

メモリーボタンの横に、[HR] というボタンがあります。このボタンを押すと、現在のレジストレーションが自動的にメモリーされます。このボタンの主な機能は、メモリーボタン使用時に、メモリー以外に設定したレジストレーションを復活するものです。HRのメモリーは、手動でストップをオン・オフさせないと変更できません。

注意: HRのメモリーはオルガンの電源スイッチを切ると消えます。

各メモリー(HR、トゥッティ含む)は保存できます。

- ストップのオン/オフの状態
 - カプラーの状態(セーブ可能等。)
 - トレミュラントの状態(変更したのものも保存できます。)
 - オルガン・スタイル(ハロック、ロマンティック etc.)
- MIDIコントロールとSEND PROGRAM CHANGE機能を使ったプログラム・チェンジの保存。
エンクローストとオートマティック・ペダル

5. [A.P.] ピストン: オートマティック・ペダル機能をオンにするボタンです。このボタンを押すと、Man. I の最低音32音で、足鍵盤のボイスを演奏できます。このとき、音は低音を優先して、単音となります。また足鍵盤からは音が出なくなります。

6. [ENC] ピストン: このボタンを押すと、スウェル・ペダル(Man. II)で、オルガンのジェネラル・ボリュームをコントロールできます。

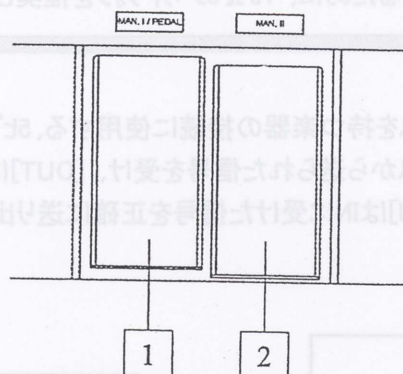
7. [T] ピストン: トゥッティをオンオフするボタンです。

トゥッティはプログラムできます。必要なストップとカプラーをオンにして、[S] を押しながら [T] を押します。

8. [C] ピストン: すべてのストップ、トレミュラント、カプラー、またオンになっている各鍵盤部のピストンをキャンセルします。そして、HRをリセットします。

2.3 ペダルのコントロール

ここにはスウェル・ペダルがあります。JU60DXIにはさらにカプラー、トゥッティ用のフットピストンがあります。



1. [MAN. I / PEDAL] ペダル: Man.I と足鍵盤のボリュームコントロールに使います。

(JU20にはこのペダルはありません。)

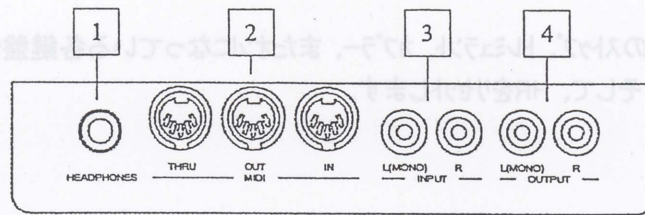
2. [Man.II] ペダル: このペダルでMan.IIのボリューム・コントロールができます。

注意: 左サイドパネルのボリューム調整つまみは、各鍵盤部のボリュームバランスをとります。各鍵盤部のボリュームをお好みに合わせて一度設定すれば、頻繁に調整する必要はありません。

一方、スウェルペダルはご希望の強弱を付けるために、常にコントロールすることになります。ボリュームの調整とは別に、スウェルペダルはパイプオルガンのスウェル・ボックスの音色変化のシミュレートもします。

2.4 鍵盤棚下の接続端子

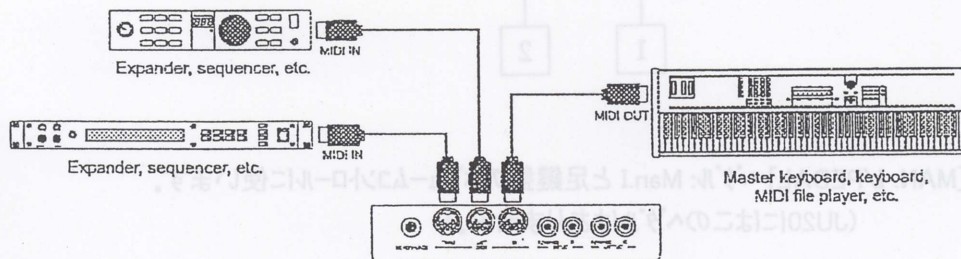
鍵盤棚下左側にMIDIやリモートの接続端子があります。



1.[HEADPHONES]コネクター: ヘッドフォンの接続端子です。(フォン・ジャック) ヘッドフォンをつなぐと、オルガンの音が出なくなります。

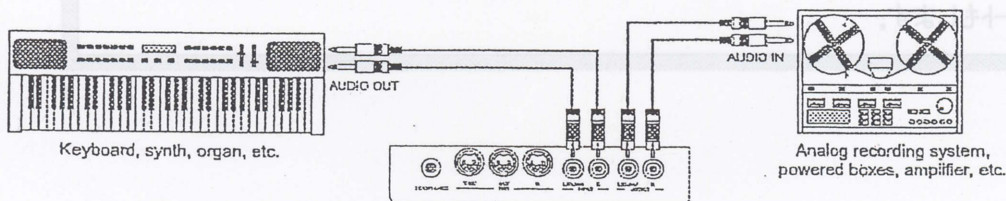
注意: ヘッドフォンの音を最適にするために、16Ωのヘッドフォンを推奨します。

2.[MIDI]コネクター: MIDIインターフェースを持つ楽器の接続に使用する、5ピンのDINプラグ用ソケットです。[IN]は他のMIDIソースから送られた信号を受け、[OUT]はオルガンから発信した信号を送り出し、[THRU]はINに受けた信号を正確に送り出すための端子です。



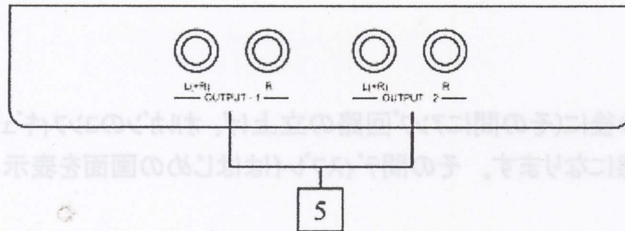
3.[INPUT]コネクター: 他の楽器で演奏したものを、オルガンのアンプで音を出すための端子です。(ピン・ジャック) 音源がモノの場合はL(MONO)へつないでください。

4.[OUTPUT]コネクター: アンプを通さない信号を送り出す端子で、アンプ付スピーカーや録音システムへ接続するためのものです。信号がモノの場合はL(MONO)へつないでください。



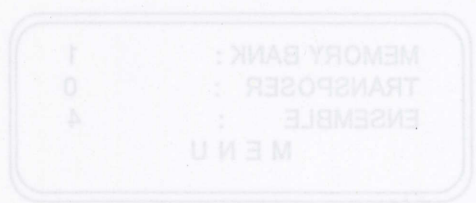
コラールP31の鍵盤のコネクションボックスの左側にツイーターのオン/オフスイッチがあります。
 鍵盤棚下の右側に、ステレオライン・イン、アウトの接続端子があります。

リアパネルの下の方にも2組のオーディオ・アウトプットがあります。
 これら2組のアウトプット主な違いは、左側がオルガン全体からの信号を含むのに対して、
 右側は各手鍵盤と足鍵盤の信号をディスプレイの設定に従って、出力する点です。



5.[OUTPUT 1] と[OUTPUT 2]のコネクター:
 ディスプレイの機能によって送られた、オルガンの信号を出力するジャック・ライン・アウトプットです。
 ファクトリー・セッティングを行うと、アウトプットの信号は次のようになります。

- [OUTPUT 1] : 全体信号
- [OUTPUT 2] : リハーブのみ



3.メイン コントロール ユニット

フロントパネルの左側に、オルガンの内部機能を調整するメインコントロールユニットがあります。

このオルガンにはいろいろな機能があり、ユーザーがカスタマイズできます。

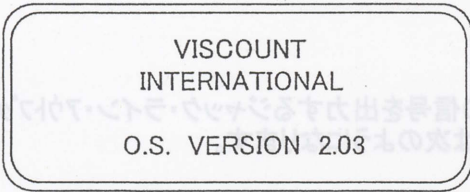
オルガンスタイル(ハロック、ロマンティック等)、ボイスとそのボリューム等の設定も可能です。

音量レベル、イコライザー、リモート・アウトプットのチャンネル割当ても調整できます。

トレミュラントやリバーブの調整の他に、MIDIインターフェースの構成も調整できます。

3.1 電源オンとメイン画面

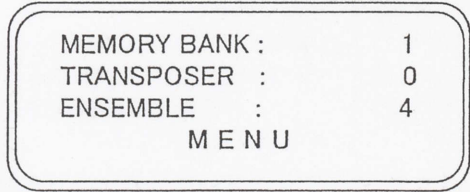
オルガンの電源をオンにすると、数秒後に(その間にアンプ回路の立上げ、オルガンのコンフィギュレーションを行います)使用可能状態になります。その間ディスプレイははじめの画面を表示します。



VISCOUNT
INTERNATIONAL
O.S. VERSION 2.03

楽器にインストールされているファームウェアのバージョンをチェックできます。

電源立上げが終わると、画面は次のようになります。



MEMORY BANK : 1
TRANSPOSER : 0
ENSEMBLE : 4
MENU

- MEMORY BANK: このパラメーターを使って8つあるメモリー・バンクを選ぶことができます。ジェネラル・コンビネーション(メモリー)を保存できます。48のジェネラル・メモリー(6ジェネラル・メモリー×8メモリー・バンク)が保存できますので、複数のオルガニストが使用する場合に便利です。
- TRANSPOSER: +5/-6 半音の範囲で移調できます。(1目盛りが1半音です。)
- ENSEMBLE: これはパイプオルガンが経年変化と気候の影響で、調律が微妙にずれる現象を6段階でシミュレートしたものです。正確なピッチをお望みの場合は-を選んで下さい。
- MENU: オルガンの設定機能へアクセスするフィールドです。

画面内部での移動方法

画面のカーソルは暗転した部分にあります。例えば前ページの例では、カーソルはMEMORY BANKのパラメータにあります。

カーソルを動かすためには、[FIELD ▲] か [FIELD ▼] ボタンを使って下さい。

[FIELD ▲] ボタンはカーソルを上へ動かし、[FIELD ▼] ボタンはカーソルを下へ動かしします。

もしも、そのメニューに複数の画面がある場合は、右上角に矢印が現れます。

- ↓ 現在の画面に続きがある
- ↑ 現在の画面の前に画面がある
- ↕ 現在の画面の前にも、後にも画面がある

サブメニューや機能へアクセスするには[ENTER]を押します。また現在の画面を終了するには[EXIT]を押します。

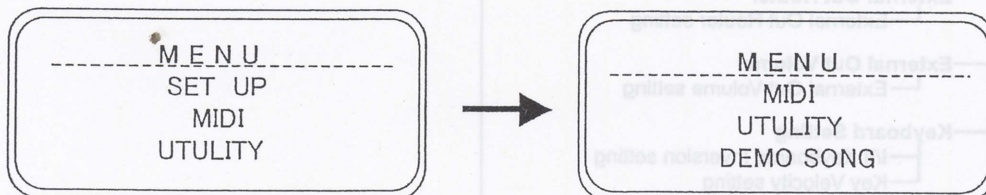
パラメータの調整や、いろいろなセッティングを選ぶには、[VALUE +], [VALUE -] ボタンを使います。

3.2 オルガンのセットアップ機能の説明

メイン画面からMENU SETTINGを選ぶと、オルガンのすべてのセットアップ機能を含むメニューへアクセスできます。その最初の画面は次のようになります。



[FIELD ▼] ボタンで下の方へスクロールすると、メニューの次の部分が表示されます。



- ORGAN STYLE: バロック、ロマンティック等の切替
- VOICES: オルガンボイスの設定機能。ボイスの入替え、調整、レジスタストップのチェックを行います。

OTEMPERAMENT: 音律の切替

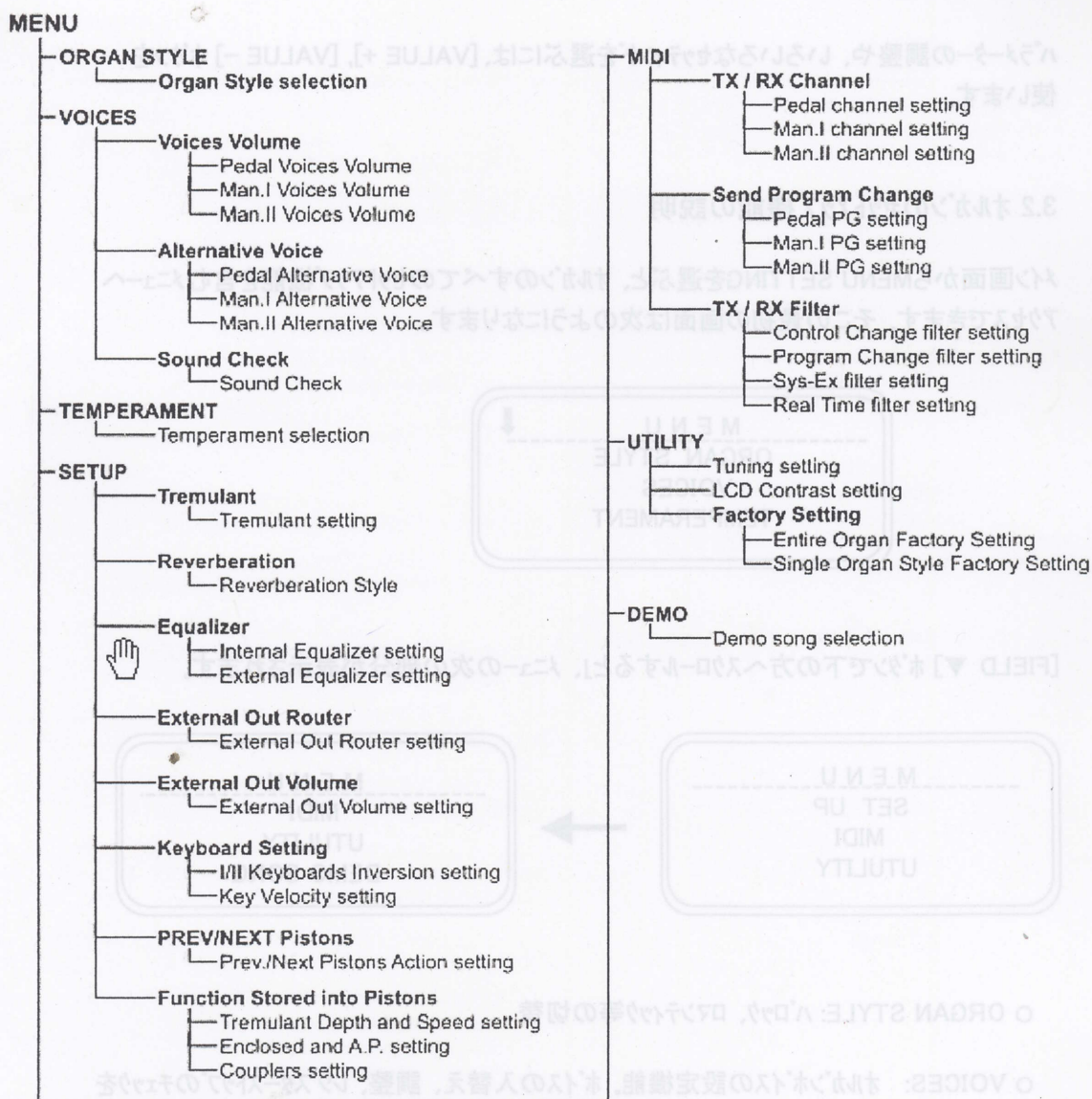
OSETUP: このサブメニューにはオルガンのジェネラル・セッティングがあります。トレミュラント、イコライザー、リバーブ・タイプの選択、アウトプット信号の調整、手鍵盤の設定、ピストンの設定。

OMIDI: オルガンのMIDIインターフェイスの設定

OUTILITY: オルガン調律の微調整、ディスプレイ・コントラスト、ファクトリー・セッティングの呼出し。

ODEMO SONG: デモソング

サブメニューへアクセスするには、[FIELD ▲] か [FIELD ▼] ボタンで関連するフィールドを選び、[ENTER] を押します。[EXIT] ボタンを押せば、メイン画面へ戻ります。下に、サブメニューの表を上げておきます。

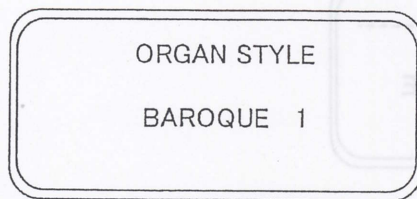


4.オルガン スタイル

コラールシリーズの重要な特長として3つのオルガンスタイルが選べることです。バロック、ロマンティック、シンフォニックがそれで、演奏する曲に合わせて、相応しいものを選ぶことができます。

各スタイルにはそれぞれバリエーションがあり、トータル6つなっています。それらは、ボイス交換機能や、ボイスボリューム調整機能によって行った修正を自動的に各スタイルにセーブできます。つまり各スタイルは好みに合わせて自由に修正可能なため、カスタマイズすることができます。

オルガンスタイルを選ぶ画面は、SETTING MENUからORGAN STYLEを選ぶとアクセスできます。



オルガンスタイルの選択が終わったら、フロントパネルのストップとボイスが対応しているかどうかチェックする必要があります。

ボイスストップの対応をチェックするためには、5.3に説明するSOUND CHECK機能呼び出して下さい。

オルガンスタイルには下記の機能もセーブされます。

- 交換ボイス(各ストップに割当てられたボイス)
- ボイス・ボリューム(各ボイスの音量)
- リハープ(リハープ効果のタイプ)
- 内部イコライザー(内部アンプのイコライザー)
- アウトプット・イコライザー(リアパネルのオーディオ・アウトプットのイコライザー)

5.ボイスの交換とボイス・ボリュームの調整

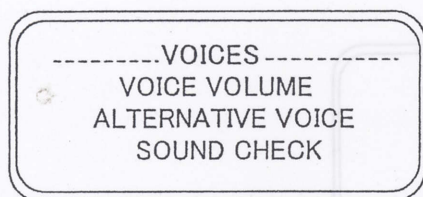
コーラルシリーズの新しい機能として、初めにフロント・パネルのストップに割当てられていたボイスをオルガンのメモリーにある別のボイスとの交換ができます。

すばやく、簡単にボイス交換ができるので、いつでもお望み通りのセット・アップが可能です。

複数のオルガニストがそれぞれのセット・アップをプリセットできます。

各ボイスのボリューム・コントロールにより、レジスターのセツアップはより細かな調整が可能です。

MENUからVOICESのフィールドを選びボイス調整の各機能へ入ります。
その画面は次の通りです。



○ VOICE VOLUME: ボイスのボリューム調整を行います。

○ ALTERNATIVE VOICE: 交換用ボイス

○ SOUND CHECK: ストップとボイスの関係をチェックする。

これらの機能にアクセスするには、[FIELD ▲] か [FIELD ▼] ボタンで関連するフィールドを選び、[ENTER]を押します。[EXIT]ボタンを押せば、SETTING MENUへ戻ります。

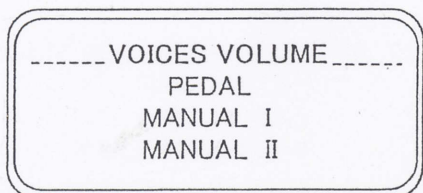
5.1 ボイス ボリュームの調整

この機能を使うと、各ボイスのボリュームを、-9dBから+9dBまでの範囲で調整できます。変更は即座に保存されます。リアルタイムで音を聞けるので、調整が簡単です。

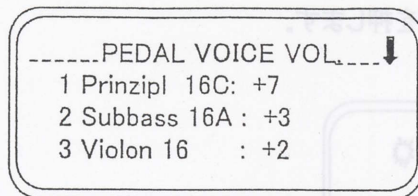
ボイスボリュームはオルガン・スタイルにも保存されます。スタイルが変更されると、ボイスボリュームも新しいスタイルに合うように、変更されます。

しかし、別のスタイルを呼び出しても、ボイスボリュームの変更は失われず、前の(変更した時の)スタイルに保存されます。

この機能呼び出すには、MENUからVOICE VOLUMEを選びます。画面は次のようになります。



変更したいボイスを含む鍵盤部を選びます。



ディスプレイには呼び出した鍵盤部の最初の3つのボイス(とストップナンバー)が表示されます。

[FIELD ▲] か [FIELD ▼] ボタンで交換したいボイスを選びます。

ストップを使えば、即座にそのボイスとボリュームが選ばれます。[VALUE +], [VALUE -]

ボタンでボリュームを調整します。新しい数値は保存され、リアルタイムで聴くことができます。

[EXIT]を押して、前の画面へ戻ります。

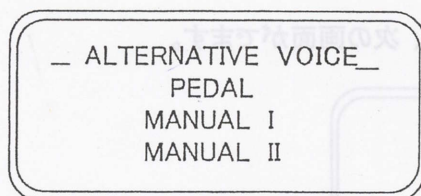
重要な注意: 各ボイス ボリュームは現在のオルガン・スタイルに保存されます。
つまり他のスタイルを呼び出すと、ボイス ボリュームは呼出されたスタイルに保存したものになります。
すべてのスタイルのオリジナル ボリュームにもどすには、ファクトリーセッティングを行って下さい。

5.2 ボイスの交換

コラールにはボイスの入替え機能があります。オルガン内部にいろいろなボイスを持っていて、多様な組合せが可能です。

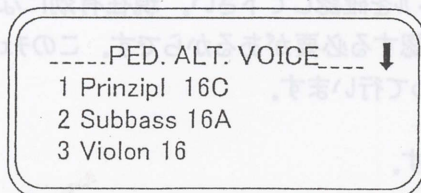
ボイスの交換機能と呼出すには、VOICEのサブメニューからALTERNATIVE VOICEを選びます。

最初の画面は次のようになります。



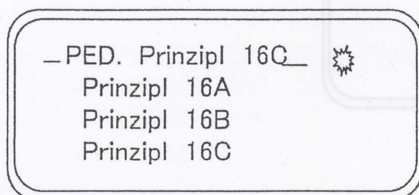
ボイスを交換する鍵盤部を選ぶか、前面パネルのストップを押して(オンにする)選びます。

この画面から選ぶと、はじめの3つのボイスが表示されます。



(ストップボタンで選ぶと次の画面へ飛びます)

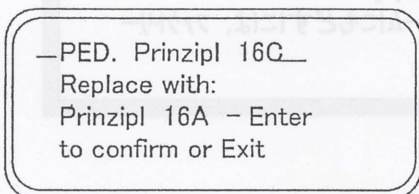
ここでまた、[FIELD ▲]、[FIELD ▼] ボタンを使って、交換するボイスを選びます。
カーソルを交換したいボイスにあてて、[ENTER]を押します。



一番上には交換しようとしているボイスが表示され、その下に、そのストップで交換可能なボイスが表示されます。

[FIELD ▲]、[FIELD ▼] ボタンを使って、交換可能なボイスをスクロールできます。
カーソルがボイスの上に移動するとそのボイスを聴くことができ、変更が楽にできます。

交換したいボイスを決めたら、[ENTER]を押します。



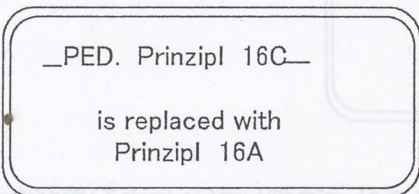
一番上に交換する前のボイスが表示され、その下に、新しく使用するボイスが表示されます。

さらに、このジョブを実行するかどうかの表示も出ます。この段階では、まだ新しいボイスのロードは不完全で、ただ音を聴くことができます。

表示にしたがって、[ENTER]を押せばボイスの交換が実行されます。

(また、このときに、[EXIT]を押せばこのジョブが取り消されます。)

[ENTER]を押すとコンピューターはボイスを入替え、次の画面がでます。



ボイスの交換完了後、フロント・パネルのストップ・ラベルを確認して下さい。現在有効になったボイスがストップ名と一致しているかどうかを確認する必要があります。このチェックはこれから説明するSOUND CHECK機能を使って行います。

最期に[EXIT]を押して、この機能を終了します。

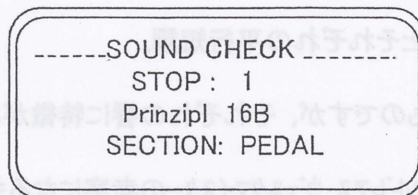
重要な注意: 各ストップにロードされたボイスは自動的に現在のオルガンスタイルに保存されます。他のスタイルを呼び出すと、ボイスは呼出されたスタイルのものとなります。交換したボイスをロードすると、ボイスを交換する前のボイス・ボリュームに設定されます。すべてのスタイルのオリジナル・ボリュームにもどすには、ファクトリーセッティングを行って下さい。

5.3 ストップラベルのチェック

異なったオルガンスタイルを選んだり、いろいろなボイスがロードされた後では、ストップラベルがボイスと一致しなくなっている状況が考えられます。そこで、ラベルとボイスに食い違いがないかチェックする必要が生じます。一致していない場合はラベルを入替えて下さい。

ラベル・チェックのためにはSOUND CHECK機能を使うと便利です。

SOUND CHECK機能を起動するには、カーソルでVOICES menu からSOUND CHECK機能を選びます。画面は次のようになります。



STOPフィールドにはチェックするストップナンバー(ライトが点灯します)が含まれています。

下の段にはそのストップに現在実際にあるボイスが示されます。

SECTION フィールドには現在アクティブになっているボイスが帰属する鍵盤部を示します。

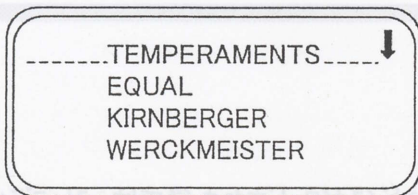
[VALUE +], [VALUE -] ボタンを使ってすべてのレジスターをスクロールできます。

あるいはストップを押してもそのストップを選ぶことができます。

すべてのストップのラベルチェックが終わったら、[EXIT] ボタンを押して、VOICESメニューへ戻ります。

6. テンペラメント

MENU からTEMPERAMENTを選ぶと、次の6つのテンペラメントがあります。



EQUAL: 平均律

MEANTONE: 8個の純粋な長3度(Eb-G/Bb-D/F-A/C-E/G-B/D-F#/A-C#/E-G#)

使用できない長3度(減4度) (B-D#/F#-A#/C#-E#/Ab-C)

ウルフの5度: G#-Eb、不規則な半音階。

ミートンで使用できる調: C,D,G,A,Bb とそれぞれの平行短調。

以下はすべての調を使えるように工夫したのですが、それぞれの響に特徴があります。

WERCKMEISTER: オルガニスト、楽理学者のアントレアス・ヴェルクマイスターの考案になるもので
1600年代後半のドイツ音楽に向きます。

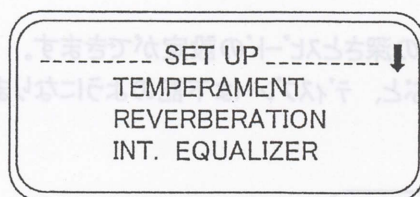
KIRNBERGER: J.S.バッハの弟子、ヨハン・フィリップ・キルンベルガーが考案した、このテンペラメントは
ドイツ・バロックとバッハの作品の演奏に向きます。

PYTHAGOREAN: 純正5度を保持したもので、中世から15世紀の音楽に向きます。

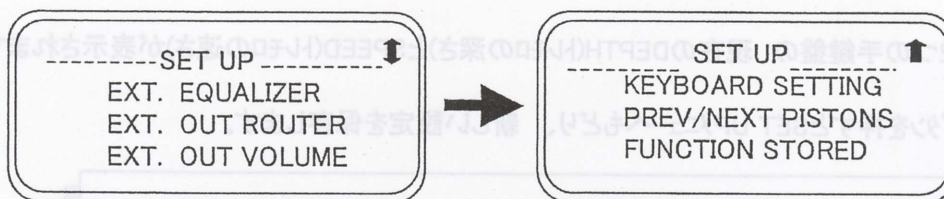
VALLOTTI: Vallottiのテンペラメントは後にイギリスのトマス・ヤングに採用されました。18世紀の
イタリア音楽と、イギリス音楽に向きます。

7. ジェネラル・セッティング

ボイスとMIDI以外の設定機能がここにあります。SETTINGメニューからSET UPを選びます。最初の画面は下記の通りです。



たくさんの設定があるので、メニューは2つの画面に別れています。カーソルを下方方向にスクロールすると、次のリスト(設定)へ進みます。



ここにある設定は下記の通りです。

- TREMULANT: 各鍵盤のトレミュラントの設定を行う機能です。
- REVERBERATION : リバースの種類を選べます。
- INT.EQUALIZER : オルガン内蔵のイコライザーの調整機能です。
- EXT. EQUALIZER : オルガンのアウトプット [OUTPUT 1], [OUTPUT 2] の調整機能です。
- EXT. OUT ROUTER : 各鍵盤部のアウトプット [OUTPUT 1], [OUTPUT 2] へのルーターです。
- EXT. OUT VOLUME : オーディオ・アウトプット のボリューム調整機能です。
- KEYBOARDS SETTING : 手鍵盤と足鍵盤のパラメーターの調整を行う機能です。
- PISTON SETTING : ピストンの調整を行う機能です。
- FUNCTION STORED : コンビネーション・セッティング機能です。

[FIELD ▲]、[FIELD ▼] ボタンを使って必要なフィールドを選び、[ENTER]を押すと、必要な機能の画面へアクセスできます。[EXIT]ボタンを押すとSETTING MENUへ戻ります。

7.1トレミュラントの設定

パイプオルガンでは、揺れの無い持続音を保つために、風圧を一定にすることが大変重要です。しかしながら、空気の流れの強さを変化させる機械装置も導入されてきました。こうして音が震える効果を作りだし、Vox Humanaのような耳に心地よい単独のボイスや、リード系ボイスにより多くの表情を持たせる効果を生みだしました。この効果は[TREMULANT]ストップを使うことにより、オン・オフできます。

トレミュラント機能を使うと、各手鍵盤のトレミュラントの深さとスピードの設定ができます。[SET UP]メニューからトレミュラントのフィールドを選ぶと、ディスプレイは下記ようになります。

----- TREMULANT -----		
Manual	Depth	Speed
I	13	14
II	13	14

ここには2つの手鍵盤の、現在のDEPTH(トレモロの深さ)とSPEED(トレモロの速さ)が表示されます。

[EXIT] ボタンを押すとSET UPメニューへもどり、新しい設定を保存します。

注意:

Depthとスピードのパラメーターは、ジェネラル・メモリー、専用メモリー、トゥッティに、それぞれ異なる数値で保存できます。これらの保存は6.7で説明する保存機能で行えます。

7.2 リバース・タイプを選択

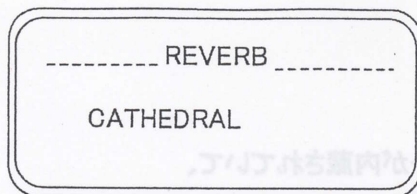
残響は閉空間の内部で、一連の反射音が伝達されることによって生じます。各反射の順序や大きさはいろいろな要素によって変化します。いろいろな要素とは、部屋の広さ、材質、部屋にあるもの、聞き手の位置等等です。

コーラルはデジタル・シグナル・プロセッサによって、パイプオルガンが設置される、建物の種類によって異なる、複雑な残響を再現して、オルガンの優れた音色をひきたてることができます。

ここではリバースの8つのタイプを選ぶ事ができます。これらのリバースはいろいろな環境に置かれた、オルガンの響をシミュレートするものです。

左サイドパネルには[REVERB]つまみがあり、リバースの調整ができます。

リバースタイプを選ぶには、[SET-UP]メニューからREVERBERATIONフィールドに入り、[ENTER]を押します。



ここには、次のリバーブタイプがあります。

- CATHEDRAL: 大聖堂のリバーブ
- BASILICA: 大教会のリバーブ
- GOTHIC CHURCH: ゴシック教会のリバーブ
- BAROQUE CHURCH: バロック教会のリバーブ
- ROMANTIC CHURCH: ロマンティック教会のリバーブ
- MODERN CHURCH: 現代の教会のリバーブ
- PARISH: 教区教会のリバーブ
- CAPPELLA: 礼拝堂のリバーブ

[VALUE +] と [VALUE -] を使ってリバーブタイプを選びます。[EXIT] ボタンを押すと選んだリバーブタイプが保存され、SET UPメニューへもどります。

注意:

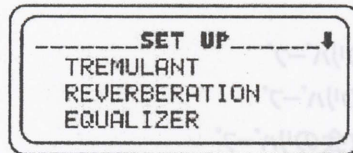
オルガン内蔵のリバーブは、鍵盤棚下の[INPUT]端子から入る信号にも有効です。オルガンスタイルにもリバーブタイプが保存できます。これはリバーブタイプの異なる、オルガンスタイルが使えることを意味します。別のオルガンスタイルを呼出すと、そこに保存したリバーブタイプが有効になります。

7.3 イコライザーの設定

このオルガンには5バンドのグラフィック・イコライザーが内蔵されていて、オルガンの音色、音色をコントロールできます。

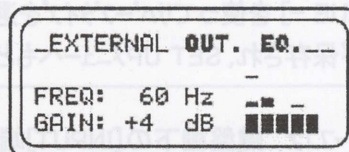
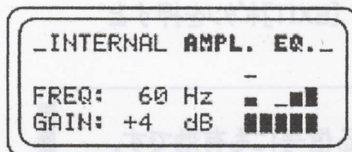
内部アンプのイコライザーの他に、オーディオ・アウトプット[OUTPUT 1],[OUTPUT 2]の信号を調整する専用のイコライザーがあります。

このイコライザーを表示するには、SETUPメニューからEQUALIZERを選び、[ENTER]を押します。



INT.EQUALIZER: 内部イコライザー画面

OEXT.EQUALIZER: アウトプット・イコライザー画面



画面に右に次のパラメーターが現れます。

○FREQ: セントラル・トリガー・フリークエンシー

○GAIN: FREQパラメーターで述べた、信号とフリークエンシーのゲイン

[FIELD ▲],[FIELD ▼]ボタンを使ってトリガー選べます。次に、[VALUE +]と[VALUE -]を使って、信号を±8dBの範囲で調整できます。

グラフィック・イコライザーが画面右にリアルタイムで表示されます。

必要な設定が終わったら、[EXIT]ボタンを押して、設定を保存し、SETUPメニューに戻ります。

注意: 外部イコライザー設定は、鍵盤棚下のRCA[OUTPUT]へ供給される信号にも影響します。オルガン・スタイルにはイコライザー設定を保存できません。他のイコライザー設定をしたオルガン・スタイルが存在する場合は、別のオルガン・スタイルをロードすると、イコライザー設定も変わることを意味します。

7.4 オーディオ・アウトプットへのシグナル・ルーティング

また、鍵盤毎の信号を出力するアウトプットを設定できる便利な機能があります。
この機能により、外部スピーカーを配置して、ウインドチェストのシミュレーションができます。
この画面を表示するには、SET UP メニューからEXT.OUT ROUTERフィールドを選びます。

EXTERAL OUT ROUTER	
OUT1:	General
OUT2:	Reverb only

この画面には2つのオーディオ・アウトプット OUT1([OUTPUT 1])と、OUT2 ([OUTPUT 2])が表示され、各アウトプットの設定ができます。

- PEDAL: 足鍵盤のみ
- MAN.I: Man.Iのみ
- MAN.II: Man.IIのみ
- PEDAL+MAN.I :足鍵盤とMan.I
- PEDAL+MAN.II :足鍵盤とMan.II
- MAN.I+MAN.II :Man.IとMan.II
- GENERAL :オルガン全体
- REVERB ONLY :リバース信号のみ

[FIELD ▲]、[FIELD ▼] ボタンでカーソルを移動し、[VALUE +] と [VALUE -] で調整します。

[EXIT] を押すと、新しい設定が保存され、SET UP メニューへもどります。

7.5 オーディオ・アウトプット ボリュームの調整

各オーディオ・アウトプットのボリューム調整機能もあります。この画面を表示するには、SET UP メニューからEXT.OUT VOLUMEフィールドを選びます。

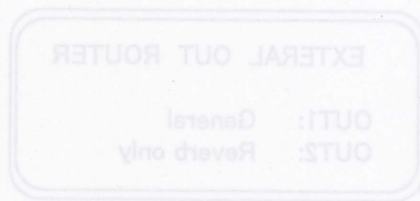
EXTERAL OUT VOLUME	
OUT 1:	16
OUT 2:	16

ここには次のパラメーターが含まれています。

- OUT1: [OUTPUT 1] のボリューム
- OUT2: [OUTPUT 2] のボリューム

ボリュームレベルは1から32の数値で設定できます。それぞれが対応するdBは次のとおりです。

- 32: 0dB
- 20: -12dB
- 16: -16dB
- 10: -22dB
- 1: -32dB

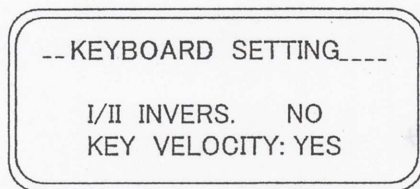


注意:

リア・パネルのアウトプット・ボリュームセッティングはRCA[OUTPUT]へ供給される信号にも影響します。

7.6 手鍵盤の基本設定

SET UP メニューからKEYBOARD SETTING フィールドを選びます。ここには手鍵盤の操作に関する2つのパラメーターがあります。

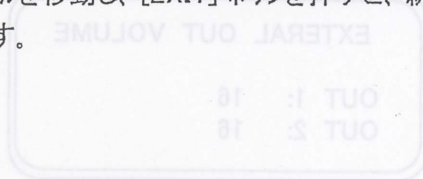


- I/II INVERS: Man.I, Man.II手鍵盤逆転機能です。この機能を使うとMan.IでMan.IIのボイスを、Man.IIでMan.Iのボイスを演奏できます。
- KEY VELOCITY: 手鍵盤の強弱機能をオンにします。この機能をオンにすると、オーケストラ・ボイスとMIDIノートの送信が鍵盤を押す速度と対応するようになります。この機能をオフにした場合は、強弱はMIDI値100に固定されます。

これらの機能を使うには、[VALUE +] と [VALUE -] で YES を選びます。

NO を選ぶと、この機能がオフになります。

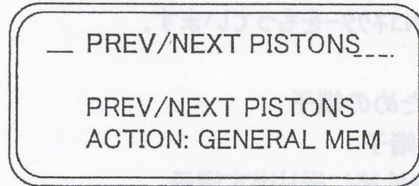
[FIELD ▲]、[FIELD ▼] ボタンでカーソルを移動し、[EXIT] ボタンを押すと、新しい設定が保存され、SET UP メニューへもどります。



7.7 ピストンの設定

メモリー・ピストンには設定機能があります。[PREV.]、[NEXT]を押すと、メモリーを順に呼び出すことができます。

この機能を設定するには、SETUPメニューから PISTON SETTING フィールドを選びます。画面は次のようになります。



GENERAL MEMORYを選べば、ピストンは通常のシーケンサーとして順番に各コンビネーションを呼びだします。

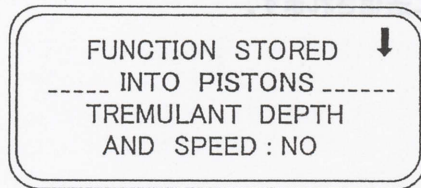
MEMORY BANKがセットされると、コンビネーションは順に現れることはなくなり、メモリーバンクだけになります。(メイン画面のMEMORY BANK) そのとき[NEXT]を押せば、メモリーバンクが進み、[PREV.]を押せばもどります。

両方の設定が終わったら [EXIT]を押してSET UPメニューへもどります。

7.8 コンビネーション保存の設定

SET UPメニューのFUNCTION STORED INTO PISTON機能を選ぶと、ジェネラル・メモリー、専用メモリー、トゥッティにお好みの設定を保存できます。

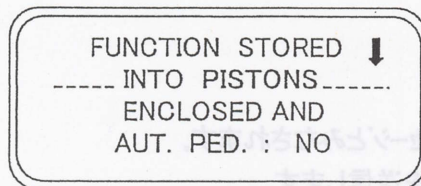
SET UPメニューのFUNCTION STOREDフィールドを選ぶと、画面は次のようになります。



この画面ではトレミュラントの速度、深さの保存をオン・オフできます。いろいろなコンビネーションを呼びだすと、そこへ保存されたトレミュラントも同時に呼びだされます。

[VALUE +] と [VALUE -] で YESを選ぶとオンになりNOを選ぶとオフになります。

[FIELD ▼] ボタンを押すと次の画面へ進みます。



ここではエンクロースドとオートマチック・ペダルのオン・オフ状態を保存できます。YESを選ぶとオンになりNOを選ぶとオフになります。

設定が終わったら、[EXIT]を押して、変更を保存し、SET UPメニューへもどります。

8.MIDI

MIDI(Musical Instrument Digital Interface) は、特別なコードを持つプロトコルを使って、構造の異なるいろいろな楽器を同時に使うことのできるものです。MIDIシステムによって、単独の楽器より、はるかに広い汎用性を持つこととなります。楽器間のデータのやり取りをするために、MIDI付の楽器には2ないし3の5ピンDINコネクターをもっています。

- MIDI IN : 他の楽器からMIDIデータを受け取るための端子
- MIDI OUT : 他の楽器へMIDIデータを送り出す端子
- MIDI THRU: MIDI INポートで受けたMIDIデータを性格に送り出す端子

MIDI付の多くの楽器は、演奏された音と強さのMIDIメッセージをMIDIOUTから送信します。そのコネクターがエキスパンダーのような、他の楽器のMIDI IN に接続されていれば、第二の楽器は送信した楽器の音に反応します。同様の情報伝達がMIDIシーケンスのレコーディングにも使われます。コンピューターカーセケンサーを使って、MIDIデータを送り出した楽器のレコーディングを行います。これらのレコーディングされたデータを楽器に送り込めば、レコーディングされた演奏をプレイバックします。

MIDIは多くのデジタルデータを送信できます。MIDIチャンネルは16あって、同じチャンネルどうしのみ、コミュニケーションできます。

MIDIメッセージはチャンネル・メッセージとシステム・メッセージに分かれます。

CHANNEL MESSAGES

NOTE ON : このメッセージは鍵盤を押したときに送信されます。

NOTE ON メッセージは次の情報を含みます。

Note On: キーが押されたとき

Note Number: 押されたときキー(の番号)

Velocity: キーが押されたときの強さ

Noteメッセージは0から127で表され、中央Cは60です。

NOTE OFF: このメッセージは鍵盤を放したときに送信されます。この信号を受けるとその鍵盤(キー)の長押しすると、外ロームのセッティングページが出ます。

Note OFF: 鍵盤が放された。

Note Number: 放された鍵盤

Velocity: キーが放されたときの速度

Velocity=0 のNote On メッセージはNote Off メッセージとみなされます。

ジューベレートはVELOCITY=0 のNote On メッセージを送信します。

PROGRAM CHANGE

PROGRAM CHANGE メッセージは受信側の楽器のプログラムや音を選ぶために使用します。またGENERAL MIDIという特殊な規格があり、それは、受信する各PROGRAM CHANGEに、どの音を呼び出すかを説明するものです。これに関連する記述は、この規格を使う楽器の取扱説明書の中に表として載っています。

Program Changeには、次の情報が含まれています。

Program Change: ホイスかProgram Change

Program Change Number: program または起動するホイスの番号

CONTROL CHANGE: しばしばトリマーやペダルに関連するこのメッセージは、演奏に表情をつける目的で使われます。エクスプレッション・ペダルのボリュームや位置を設定するホイス・パラメーターに関連しています。

CONTROL CHANGE メッセージは次の情報を含みます。

Control Change: コントローラーの調整

Controller Number: どのコントローラーを調整するか

Controller Position: コントローラーの位置

SYSTEM MESSAGES

SYSTEM EXCLUSIVE

このメッセージは送信したのと同じ楽器によってだけ解釈できます。主として楽器の発音とプログラム・パラメーターに関連します。

ジュビレイトはこのメッセージをすべての内部パラメーターとホイスのオン・オフに使用します。

REAL TIME

このメッセージは接続した楽器の、特別なモジュールや機能のリアルタイム・コントロールに使用します。このメッセージには、スタート、ストップ、ポーズ/継続、また時計のコマンドを含んでいます。

START: シーケンサーのレコーディングまたはプレイバックのスタート

STOP: シーケンサーのストップ

PAUSE/CONTINUE: シーケンサーがストップモードにする。

CLOCK: シーケンサー スピード

注: ジュビレイトでは上記の情報は送受信されません。MIDI全体の説明として書きました。

Real Time メッセージには2つのMIDI楽器間のデータのやり取りに使う Active Sensing code もあります。受けての楽器がMIDIデータを受けない場合や、300ミリ sec.でActive Sensing codeを受けられない場合、すべての音をオフにします。

このメッセージの送信、受信はオプションで、すべての楽器で可能なわけではありません。

MIDIの設定にアクセスするには、SETTING MENUのMIDIを選び[ENTER]を押します。



この画面で設定できる機能は次のとおりです。

- TX/RX CHANNEL: MIDI送受信チャンネルの選択
- SEND PROG. CHANGE: プログラム・チェンジ メッセージの送信
- TX/RX FILTERS: MIDIフィルターの設定

[FIELD ▲]、[FIELD ▼] ボタンでカーソルを移動し、[ENTER]を押すと必要な機能を選べます。
[EXIT]ボタンを押すと、MIDIのサブメニューから離脱して SETTING MENUへもどります。

8.1 チャンネルを選ぶ

MIDIの送受信チャンネルを設定するためには、MIDIサブメニューのTX/RX CHANNELを選びます。

TX/RX MIDI CHANNEL	
PEDAL	: 4
MANUAL I	: 2
MANUAL II	: 1

オルガンの3つの鍵盤部に対応する3つのフィールドが表示されます。横の数字がその鍵盤部の送受信チャンネルを示しています。

[FIELD ▲]、[FIELD ▼] ボタンでカーソルを移動し、[VALUE +] と [VALUE -] でチャンネルを選びます。

[EXIT]を押すと、MIDIメニューへもどり、設定が保存されます。

注意:

同一の鍵盤部に異なる送受信チャンネルを設定することはできません。
MIDI16チャンネルは選択できません。16はシステム・チャンネルで、VISCONTの他の楽器との、内部コードのやりとりに使います。

8.2 プログラム・チェンジ メッセージの送信

MIDIプログラム・チェンジ(PG)メッセージは接続した楽器に特別な音や、プログラム(patch)を呼び出すことができます。この機能を使うと、オルガンの[MIDI OUT]ポートに接続した外部音源モジュール(CM100のような)からボイスを選ぶことができます。

MIDIのサブメニューからSEND PROG. CHANGEを選び、[ENTER]を押すと次の画面が現れます。

SEND PROG. CHANGE	
PEDAL	: OFF
MANUAL I	: 1
MANUAL II	: OFF

PGメッセージを送信するためには、カーソルをその鍵盤部へあて、[VALUE +] と [VALUE -] でPGの数値を設定します。

各数値を選ぶと、関連するPGは自動的に送信されます。

例えば足鍵盤のMIDI AチャンネルがNo.3で、足鍵盤のフィールドの横に20を選んだ場合、プログラム・チェンジ No.20がMIDI 3チャンネルを通して送信されます。

この画面で設定したプログラム・チェンジはジェネラル・コンビネーション(メモリー)に保存されます。

上の画面でPGメッセージを選び、メモリーに保存します。この機能は特に外部音源モジュールを使っている場合に、またメモリーで呼び出したストップに特殊なボイスが必要な場合に大変便利です。PGの送信が必要無い場合は、PGをオフにした状態を保存して下さい。

8.3 フィルターの設定

MIDIフィルターはすべてのMIDIチャンネルの送受信で、チャンネルの指定された特定のメッセージを遮断する機能です。例えば、コントロール・チェンジ送信フィルターは、オルガンがコントロールするすべてのMIDIチャンネルで、[MIDI OUT]ポートへのMIDIメッセージの送信を制限します。

同様に、受信フィルターは、すべてのチャンネルで、[MIDI IN]ポートに受信するCCを制限します。(それらのCCは適用されません。)

MIDIフィルターを設定するには、MIDIサブメニューからTX/RX FILTERフィールドを選びます。次の画面が現れます。

TX/RX MIDI FILTER ↓	
CC	: NO/YES
PG	: NO/NO
SYSEX	: YES/NO

TX/RX MIDI FILTER ↑	
PG	: NO/NO
SYSEX	: YES/NO
REALTIME	: YES/YES

次のメッセージのフィルターがオン・オフできます。

- CC: コントロール・チェンジ(コントロール・メッセージ)
- PG: プログラム・チェンジ(プログラム/ボイスを選ぶメッセージ)
- SYSEX: システム・エクスクルーシブ(システム・エクスクルーシブメッセージ)
- REAL: リアルタイムメッセージ(スタート、ストップ、コンティニュー、MIDIロック、アクティブ・センシング)

画面の右側には各メッセージのフィルター設定に関するフィールドが含まれています。

設定方法は次のとおりです。

- NO/NO: 送受信メッセージの両方のフィルターオフ
- YES/NO: 送信メッセージにのみフィルター有効
- NO/YES: 受信メッセージにのみフィルター有効
- YES/YES: 送受信メッセージの両方のフィルターオン

フィルターがオン(有効)になっていると、MIDIメッセージの送信/受信ができません。

[EXIT]を押すとMIDIメニューへもどり、新しい設定が保存されます。

9.ユーティリティ機能

SETTINGメニューのUTILITYサブメニューにはオルガンの基本的な3つのユーティリティ機能があります。チューニングとディスプレイのコントラスト、そしてファクトリーセッティングです。このメニューへアクセスするには、SETTINGメニューの中のUTILITYサブメニューを選び、[ENTER]を押します。

```
----- UTILITY -----  
TUNING: 440.0Hz  
FACTORY SETTING  
LCD CONTRAST: 8
```

この画面には次のフィールドがあります。

- TUNING : 415.3Hzから466.2Hz(3番目のAで)の範囲で、0.1Hz単位で調整できます。
- ファクトリーセッティング: ファクトリーセッティングにもどす機能です。
- LCD コントラスト: ディスプレイのコントラストです。

9.1 ファクトリーセッティング

ファクトリーセッティングを行うと、ユーザーが行ったすべての変更がキャンセルされ、工場出荷時の設定へもどります。ジョypadではリセットしたい部分を選ぶことができます。全体設定の復元と部分的な復元が可能です。ファクトリーセッティングを行うには、UTILITYサブメニューの中のFACTORY SETTINGを選びます。画面は次のようになります。

```
--- FACTORY SETTING ---  
RESTORE:  
ENTIRE ORGAN  
ORGAN STYLE only
```

この機能を使って、オルガンのどの部分の設定を復元するか選ぶことができます。

- ENTIRE ORGAN: オルガンのすべての機能(メモリー、トランスポーター、テンプレート、アンウサンブル、スタイル、ボイス、ボイス・ボリューム、SET UP機能、MIDIセッティング、UTILITYパラメーター)
- ORGAN STYLE ONLY: スタイルのみ復元(ボイスとスタイルのボリューム)

オルガン全体のファクトリーセッティング

[FIELD ▲]、[FIELD ▼] ボタンでENTIRE ORGANを選びます。ファクトリーセッティングを行うと、すべての変更が失われるという警告が出て、その確認が求められます。

!! WARNING !! CURRENT
SETTING WILL BE LOST
ENTER TO RESTORE
OR EXIT TO ABORT

ファクトリーセッティングをすすめるためには[ENTER]を押します。また、その操作をやめる場合は[EXIT]を押します。

ファクトリーセッティングが始まると、画面にはデータのリロードの間、スタンバイの表示が現れます。

---- FACRORY SETTING-----
PLEASE WAIT ..

その後自動的にオルガンの初期設定が立ち上がります。

部分ファクトリーセッティング

パイカウト社が設定したオルガンスタイルのみ復元しようとする場合は、FACTORY SETTING画面の中のORGAN STYLE ONLY を選びます。画面は次のように変わります。

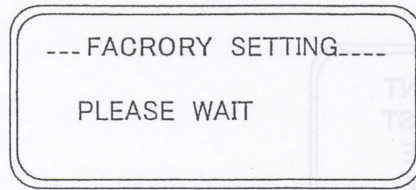
--- FACTORY SETTING---
ORGAN STYLE
RESTORE:
BAROQUE 1

ここで、[VALUE +] と [VALUE -] で復元したいオルガン・スタイルを選び[ENTER]を押します。

!! WARNING !! CURRENT
STYLE WILL BE LOST
ENTER TO RESTORE
OR EXIT TO ABORT

コンピューターが、変更したボイスや、選ばれたオルガン・スタイルのボリューム等が失われることを警告してきます。この操作を続ける場合は[ENTER]、止める場合は[EXIT]を押して下さい。

ファクトリー・セッティングが始まると、画面はスタンバイ状態になり、ファクトリーデータのリロードが行われます。



その後自動的にオルガンの初期設定が立ち上がります。

10. アペンディクス

10.1 デモ ソングス

オルガンにはいくつかのデモ曲があり、音を聞くことができます。

デモを呼び出すためには、SETTING MENUからDEMOを選びます。

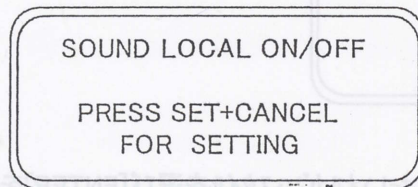
[FIELD ▲]、[FIELD ▼] ボタンで、聞きたいトラックを選び、[ENTER]を押します。

プレイバックを止める場合は[EXIT]を押します。

10.2 ボイス ローカル オフ

ボイスをローカル・オフモードにすると、オルガンからは音がでなくて、MIDIメッセージ(System Exclusive)が送信されます。その結果、接続した楽器がオンになり、その楽器の音が鳴ります。

ボイスをローカル・オフモードにするためには、[S] (セット) ボタンを押したまま、[C] (キャンセル) ボタンを押します。そうすると、すべてのストップランプが点灯し、画面は次のようになります。



次にストップランプを押して、ランプを消します。そしてもう一度[S] と[C]を同時に押すと、ローカルオフが保存できます。

ローカル・オフ設定後の画面がその状態を示します。

- ランプ点灯: ボイスがローカル・オフモードになっています。(オルガンの音はでます。)
- ランプ消灯: ボイスがローカル・オフ状態になっています。(オルガンの音はでません。)

通常の操作では、ボイスがローカル・オフモードになっている場合、電源スイッチをオンにすると、ストップランプが3回点滅した後、点灯します。

10.3 オペレーションシステムのアップグレード

オルガンのオペレーションシステムのアップグレードにはMIDIファイル(.MID)リーダーが必要です。つまりアップグレードファイルのデータがオルガンに送信されなければなりません。MIDIシーケンスに使うハードウェアか、このタイプのファイルを情報処理できるコンピュータのソフトウェアパッケージを使うこととなります。送信側のMIDIデータアウトポート*にジュビレートの[MIDI IN]コネクタに接続して下さい。（*ハードウェアモジュールのMIDI OUTか、シリアルか、USB/MIDIインターフェースか、コンピュータを使っている場合のジョイポート等です。）

アップデートが始まると、オルガンにデータが送信され、画面は次のようになります。

```

-----WAIT TO UPDATE-----
Enable MiDi

Boot Release: 1.06
    
```

画面は受信したデータのパーセンテージを表示します。

```

      WAIT TO UPDATE
      Enable MiDi
      Loading = 14%
      Boot Release: 1.06
    
```

アップデートが終ると、画面は次のようになります。

```

      UPDATE
      COMPLETED
    
```

そこでオルガンの電源を一度オフにし、再度オンにします。そのときに次の画面がでた場合は

```

      RELEASE CHK SUM
      Error
    
```

[FIELD ▲]、[VALUE +]、[EXIT]の3つを同時に押したまま、電源スイッチをオンにし、アップデートの手順を繰り返して下さい。

MIDI IMPLEMENTATION CHART

Viscount Vivace 40 Deluxe - 40 - 30 Deluxe - 30 - 20
Classic Organ

Version: 1.0
Date: 04/10/06

FUNCTION...		TRANSMITTED	RECEIVED	REMARKS
BASIC	Default	1÷15	1÷15	
CHANNEL	Changed	1÷15	1÷15	
MODE	Default	Mode 3	Mode 3	
	Messages	*****	*****	
	Altered	*****	*****	
NOTE		30÷101	0÷127	
NUMBER	True Voice	36÷96	30÷101	
VELOCITY	Note ON	O	O	
	Note OFF	X	X	
AFTER	Key's	X	X	
TOUCH	Ch's	X	X	
PITCH BENDER		X	X	
CONTROL	7	O	O	Volume
CHANGE	11	O	O	Expression
	120	O	O	All sound off
	121	O	O	Reset All Controllers
	123	O	O	All Notes Off
PROGRAM		O	X	
CHANGE	True#			
SYSTEM EXCLUSIVE		O	O	
SYSTEM	Song Pos	X	X	
COMMON	Song Sel	X	X	
	Tune	X	X	
SYSTEM	Clock	X	X	
REAL TIME	Commands	X	X	
AUX	Local On-Off	X	X	
MESSAGES	All notes off	O	O	
	Active Sense	O	O	
	Reset	X	X	
NOTES:				

Mode 1: Omni On, Poly
Mode 3: Omni Off, Poly

Mode 2: Omni On, Mono
Mode 4: Omni Off, Mono

O=YES
X=NO

viscount

• **Viscount International S.p.A.**

Via Belvedere Fogliense 154 - 47836 Mondaino (RN), ITALY

Tel: +39-0541-981700 **Fax:** +39-0541-981052

Website: www.viscount.it - www.physisorgans.com

総輸入発売元
株式会社ヤマハミュージックジャパン
〒108-8568
東京都港区高輪2-17-11
電話: 03-5488-5442
FAX: 03-5488-5075